市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第3回）

11月5日（木）午後7時～午後8時26分　子持公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	適正規模・適正配置のメリット・デメリットをもっと分かりやすく説明してもらいたいです。	市内の小中学校の多くが、国が示す標準規模の考え方からすれば、小規模校に該当します。一部の学校では、クラス替えがないことによる子ども同士の人間関係への影響や児童生徒や教員が少ないことによる学習環境への影響、人数が必要な活動ができないなどの子どもの選択肢が制限されることなどが生じ始めており、今後、さらに児童生徒数が減少する見込みであることから、その拡大が懸念されます。この状況において、統廃合を含めた学校の適正規模・適正配置により、一定の規模（人数・学級数）を確保することで、それらの改善が図れると考えています。 ただし、学校の適正規模・適正配置を進めることで、通学距離や時間が長くなるケースが生じたり、地域から学校がなくなる心配の声があるため、地域説明会等を通じて、関係者の皆さんと慎重な検討が進められるよう、改めて適正規模・適正配置の必要性などについて周知に努めたいと考えています。
2	適正規模・適正配置によって、クラス替えができるようになることがメリットとしてあると認識しています。それ以外のメリットやデメリットが知りたいです。	
3	適正配置により学校が遠くなることで、バス通学をする子どもが多くなると思います。バスの運行予定や学童への送迎バスがどうなるかなど、通学バスや送迎バスの手配はどのように考えているのでしょうか。	今回検討している適正配置により、従前は徒歩で通学していた児童生徒が、通学バスで通学するケースが増えるため、学校の適正規模・適正配置を進める中では、地域やエリアの特性に合わせた通学方法等の検討が必要です。 再配置後の通学バスルートの検討や利用基準を含めた運行方法等につきましては、学校の適正規模・適正配置の進捗に合わせて検討を進めます。
4	バス通学の子が増えると思います。以前、通学バスのスピードがあまりにも速く、乗っている子ども達が怖い思いをして学校や市議に相談したことがありました。また、バスの中へ取り残されたりした事故をニュースで見てとても心を痛めました。 バス通学になることによって、このような事故は必ずといっていいほど起きるので、とても心配です。運転手さんの研修などを行ったりして、対応を徹底してほしいです。	
5	情報の周知の手段として動画を活用してはどうでしょうか。市ホームページに掲載しておけば、保護者の都合の良いときに閲覧できて、理解を深めていただくことができると思います。できれば、1コンテンツ10分～15分が良いと思います。	都合により地域説明会に参加できない方が、自分の都合に合わせて説明会の内容を確認できるよう、第2回地域説明会における説明内容は、市のホームページに動画を公開しています。 より視聴しやすい動画の再生時間や内容の検討と合わせて、動画を公開していることも広く周知したいと考えています。
6	資料5ページ（3）地域説明会での会場意見等にあるように、「適正規模」という表現によって、小規模が「不適正」であるような印象にならないかと感じています。 国が使用している言葉であり、ある程度の規模にしていくことで教育予算を削減する方向で全国的に統廃合が進められているように思います。	「適正規模・適正配」という言葉は、国の手引で使用されています。 昨年度、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定する際にも名称についての議論がありました。 「再編」という言葉は、過去に学校の統廃合が進められた時期に使用されていたもので、今回は、当時の統廃合のイメージとは異なる内容で子どもたちの学びの環境の改善を進めることも踏まえ、国の手引にならい、名称を設定しました。 今年度は、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を策定する予定でおりますが、計画の策定に当たっては、わかりやすい表現も検討します。
7	アンケートなどで、「適正規模・適正配置」という言葉を使うのはわかりにくいのでやめてほしいです。また、誘導的であると思います。学校統廃合の問題といった方が分かりやすいです。	

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
8	赤城北中の人数が非常に少ない状況にあります。資料にある学校運営協議会、説明会、保護者のアンケート結果としても、赤城地区に関しては赤城北中と赤城南中を早期統合してほしいという意向が強いと思います。 本日、基本計画策定の期間延長の説明を受けましたが、早期統合の意向がある程度はっきりしている学校は、計画策定とは別に統合の調整を進めていただきたいです。 早期統合の検討についての具体的な説明があれば、説明を受ける立場としても落ち着いて考えられると思います。	今回の説明会において、基本計画の策定期間を変更させていただくご説明をしましたが、資料1・14ページ「4検討の経過と今後の方針について」(3)今後の方針に記載しましたとおり、早期統合の要望への対応として、計画の策定と並行して、早期に進めていけるかどうかを含めて検討いたします。
9	そもそも人口を増やすためにはどうしたら良いか考えるべきではないでしょうか。	人口減少対策として、子育てに限らず、まちづくりの分野でも様々な施策を講じているものの、多くの自治体同様に、渋川市内の人口は減少している状況にあります。 今回は学校の適正規模・適正配置の検討となり、教育の分野に焦点があたった内容になりますが、現在、これと並行するかたちで、「総合計画」の見直しも進んでおります。 総合計画では、教育の分野も含めた、市全体としてどのようなまちづくりをするか検討することになります。学校の適正規模・適正配置の検討を進める上では、総合計画を含む、他の市の施策等の連動も図りながら対応したいと考えています。
10	子どもが大人になって市外に出ても、また帰ってきたいと思える市であってほしいです。	
11	学校が地域からなくなる可能性があることで転入を躊躇している人を知っています。また、学校が地域からなくなると転出してしまう人も増え、人口が減ってしまうと思います。 学校も含めて、若い人が地域に残るような政策を検討していただきたいです。	
12	統合と同時に、地域の特色が活かせる仕組みをつくり、廃校する地域住民を巻き込んだものとしてほしいです。	
13	元教員の経験から、小規模学級の良さを感じています。世界的には、全校で100人ぐらいの学校が適正だとしている国もあるようです。教員の中にも、規模が大きい学校よりも小さい学校に行きたいという人がいると思います。 また、競争で力を発揮して成長できる子どももいれば、競争で傷ついてしまう子もいます。自分の力を認めてもらうとか、自信を持つことで社会に出て、競争の中でも頑張れる力が育つと思っています。 適正規模・適正配置の検討において、教育委員会が「子どもによって適正な規模が異なること」を把握した上で検討してることは承知をしていますが、小規模の良さを大事にしてほしいと思っています。	適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。それには、一定の規模(人数)が必要になります。また学力や心の成長には、一定の学級数がいるという考えもあります。 「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」において、適正な学校規模の基準を策定する際にも、子どもによって適正な規模の考えが変わるため、小規模の学校の可能性も踏まえた検討にしてほしいという意見はいただいております。 基本的には「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」で規定する基準に基づいた学校規模・配置を行う考えでおりますが、他自治体では、「学びの多様化学校」や義務教育学校を置く事例もあることから、他自治体の事例を参考にしながら研究・検討いたします。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
14	当初スケジュールがとてもタイトだなと思っていたので、期間が延長されるとのことで正直安心しました。説明会の中でも色々と意見がありましたが、周知の方法を改めて検討いただけますと幸いです。ぜひ、中郷小での保護者向け説明会をしていただきたいです。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定期間延長に合わせ、より広く関係者の方に、この取組の周知を図りたいと考えています。 現状は、広報しぶかわや市のホームページ、市の公式SNSのほか、児童生徒の保護者向けのメール（すぐーる）、未就学児の保護者向けのチラシ配布で周知をしておりますが、今後、保護者の方に対する情報提供や意見交換の場を改めて設けたいと考えています。合わせて、未就園児の保護者やこれから出産する方への情報提供につきましても、子どもの検診の際に情報提供等を行いたいと考えています。 また、PTAから、個別に説明会を実施できないかというご提案・ご相談をいただき、「しぶかわ出前講座」を活用した個別の説明会をする予定もあります。学校の適正規模・適正配置について、内容をご理解いただいた上で意見交換等を進めていけるよう、情報の周知等にも努めます。 なお、自治会での回覧板の活用については、「自治会の負担軽減の面から広報紙に掲載したもの（毎戸配布したもの）の回覧板としての取り扱いが難しいこと」、「手元に情報が残らないこと」から、現状では市として実施をしておりません。しかし、自治会によっては、その地域独自に「学校の適正規模・適正配置」の取組を回覧板や地域の口コミで周知いただいているところもございます。
15	もっと周知が必要だと思います。	
16	PTA、各地域の保育園などの子を持つ親の意見、これから小学校に入学する親の意見を多く聞いて、統合に生かしてください。	
17	第3回目参加させて頂いて、周知が大事だと痛感しました。市の方でも大変だと思いますが、話を進めていくためには、知ってもらわないと、議論にはつながらないと思いました。	
18	すぐーる等で配信しても中々周知されていないと思います。私の子どもは、この計画の頃には卒業してしまうため、これからの子ども達のために、また、その保護者のために、小さい子を持つ親御さん達になんとかこの計画を知らせる方法を考えていただきたいです。	
19	保護者アンケートの回答率が低いと思います。学校の適正規模・適正配置の取組自体を知らない保護者が多いと思います。今後の保護者への周知方法やアンケートの回答率向上のための取組を何か考えているのでしょうか。 また、未就学児の保護者にはどのような周知を考えているかお聞きしたいです。	
20	学校の適正規模・適正配置の取組が、保護者や住民に十分に届いていないと思います。心に届いていないので無関心な状態であるように思います。広報紙などの配布物に掲載するだけではなく、直接話を届けることが一番よく届くと思います。市民全体に届けるのは難しいことですが。 情報が届いた人達が議論の場に臨めれば、本当に有意義な意見が出ると思います。是非、検討をお願いします。 実施方法の検討に当たっては、情報を知らせたい対象に、どのような方法が良いか聞いてもらいたいです。	
21	回覧板による周知であれば、全戸に内容が渡ると思います。	
22	今回のような説明会を学校で開催することはできるのでしょうか。既に興味がある保護者は説明会に参加していると思うのですが、自分事として考えられていない保護者も、学校で開催するとなれば興味を持つように思います。	
23	保護者には言葉で伝えることをした方が良いと思います。声が届かないとアンケートも答えない人がいると思います。 小中学校だけでなく、保育所等でも話をする機会を設ければ、保護者は興味を持つと思います。	
24	統廃合の可能性がある学校の保護者には「学校がなくなるかもしれませんよ」と強調して発信していただきたいです。	

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
25	義務教育学校のメリットとして、中１ギャップの解消が挙げられることがあります。しかし、子どもが成長するチャンスである「小学校卒業の経験」を逃すことにもなります。 市内の旧市町村に学校を残す手段として義務教育学校の設置も良いとは思うのですが、導入に当たっては、義務教育学校のデメリットへの対応も必要だと思います。 「特色ある教育」といいますが、今の多忙な教員の環境では、その研究をする余裕があるのかという疑問も持っています。	義務教育学校の導入のデメリットとしては、転校時の不便さ（従来の教育課程と異なる部分があることによる）や小学校から中学校に進学する際の気持ちが薄れるなどのほか、実務の面で教職員の負担増があるようです。 その反面、中１ギャップへの対応や特色ある教育の実施、教職員の意識向上など、様々なメリットがあると言われています。 これまでの説明会等の中では、特定の地域にのみ義務教育学校を設置すると、別の学区（義務教育学校を設置していない地域）の子どもに不公平ではないかという心配の声もあるため、適正規模・適正配置を考えて行く中で、義務教育学校の導入については、色々な意見を含めて検討･研究が必要であると考えています。 （参考） 昨年度策定した「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」では、適正な規模を達成することを前提としているため、複数学級にならないなど、小規模校のデメリットを解消しきれない「適正規模化を伴わない義務教育学校の導入」は想定をしないという考え方をまとめています。
26	第２回地域説明会で示された素案にある適正配置後のモデルやパターンにおいて、廃校とならない学校はどのような基準で選んでいるのでしょうか。単純に人数が少ない学校を廃校にして、人数が多い学校に統合しているのでしょうか。それとも立地や建物の老朽具合などを含めて検討しているのでしょうか。	素案として提示したモデル等の検討に当たっては、単純に人数の少ない学校を人数の多い学校に統合するというものではなく、通学への影響（距離や時間など）や現校舎の立地条件（「子持中学校は、黒井峯遺跡の関係で現行の場所で建て替えができない」など）、市のまちづくりとの整合性などの多角的な視点から検討をしています。 なお、第２回説明会では、素案として「適正規模の維持を重視し、旧市町村の区切りを崩したモデル（南北３分割モデル）」と「旧市町村の区切りを重視し、規模の面で妥協したモデル（河川区切りモデル）」を提示していますが、これまでのご意見等を踏まえ、今後、素案の修正を検討します。
27	子ども達が多くの友達と学び、競い合い、コミュニケーションの場となるように統合を進めて欲しいです。	
28	基本的には、統合に賛成ですが、各地域に一つの小学校を残してほしいです。学校を残すことによって、地域のコミュニティ、歴史や文化の継続につながると思います。地域に学校がなくなるとさらに人口減につながると思います。	第２回説明会において、たたき台となる素案をご説明したところ、自分の地域の学校がなくなる可能性があることへの多くの心配の意見をいただきました。そのこともあり、今回は基本計画の策定期間を延長しておりますので、より多くの関係者の方のご意見を伺いながら、この取組を進めたいと思います。
29	学童職員向けの説明会、検討会、意見交換会等を実施してもらえるともっと有意義な意見が出てくると思います（保護者や地域住民とは違った意見）。	学校の適正規模・適正配置が進み、学校の数が減ることで、放課後児童クラブ（学童保育所。以下、学童。）の在り方も変化することが想定されます。そのため、学童を代表する方の集まりに説明の機会をいただいて、学校の適正規模・適正配置の検討についてご説明させていただいたことがございます。 具体的な検討は、適正規模・適正配置により統廃合となる学校の見込みが立ったのちに進められる事案と考えておりますが、現時点（検討段階）から学童の所管課（こども課）と連携を図り、先行事例の研究も含めて検討します。
30	子持地区の学童は学校から離れた場所にあり、「学級閉鎖になった場合に、健康な子が学童を利用できる」などのメリットがあります。 適正配置により、学校に併設する学童となると、そのような利用ができなくなります。また、学童の運営には高校生アルバイトが関わっていますが、適正配置により遠くに配置された学校に併設する学童となると、高校生アルバイトが勤務できなくなり、学童の運営が難しくなることが想定されます。	

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
31	保護者アンケートについて、現状の学校規模によって回答が偏ると思います。非常に人数の少ない学校の保護者意見を把握できるよう、設問やアンケートの取り方を工夫していただきたいです。	今後アンケートを実施する際には、より回答しやすい設問になるよう努めます。 なお、今回実施した保護者アンケートについては、参考資料3で学校別の回答もまとめています。
32	第2回説明会で示された素案の修正案についての説明会は、今後開催する予定があるのでしょうか。	現在、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の変更後の策定スケジュールを調整しています。今年度中に変更後の策定スケジュールについて、市議会に説明する予定でおりますので、その後、地域説明会を開催したいと考えています。 なお、地域説明会の開催が決まり次第、広報しぶかわや市公式SNS等にて情報発信させていただきます。